

文教大学 父母と教職員の会

会報110号

発行 文教大学父母と教職員の会 発行日 平成26年4月1日
〒343-8511 越谷市南荻島3337
越谷 ☎048-974-8811 FAX. 048-977-7791
湘南 ☎0467-53-2111 FAX. 0467-54-5721
ホームページ <http://www.bunkyo.ac.jp/etc/fubokyo/> e-mail fubokyo@stf.bunkyo.ac.jp



右：越谷校舎 左：湘南校舎

目次

卒業される皆様へお祝いの言葉	… 2
26年度入学試験状況報告	… 3
ご退職される教職員の皆様から	… 4
キャンパスよ、熱くなれ	… 5
経営学部の特徴	… 6
新しい情報学部がスタートしました	… 7
都道府県のページ	… 7
第20回山梨県支部	… 8
風は西から	… 9
シリーズ「現場から見た 昨今の文教大生気質」③	… 10
支部派遣教職員報告 その⑫	… 10
山形県支部研修会	… 11
福島会津 福島中通り研修会	… 11
学内訪問「どんどころ」	… 12
越谷校舎 生涯学習課	… 13
平成26年度 父母のための一日大学スケジュール	… 12
年間行事予定(湘南・越谷)	… 13
学生活動紹介	… 14
MediaStudiesCafe(湘南)	… 14
吹奏楽部(越谷)	… 14
生涯学習センターからのお知らせ	… 15
保護者説明会(国際学部)	… 16
活動充実強化特別委員会	… 16
課外活動表彰者一覧	… 16

平成二十五年度 卒業式

卒業される皆様へお祝いの言葉

会長 高橋 一弘



本年度文教大学を修了・卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

そして保護者の皆様もこの日を迎えられたことに対し、ひとかたならぬお慶びを感じていらっしゃることと重ねてお祝い申し上げます。

また、渡辺理事長や野島学長をはじめとする教職員の皆様には、今までご教授、ご指導をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、今年11日で、東日本大震災から3年を経過しましたが、皆さんは1年生の時ですので覚えていらっしゃると思います。

本日規定の単位を修了し学位を取得された皆さんは、無事卒業式を迎えることができました。

しかし、このことは当たり前のことでしょうか？ たとえば、3年前

の卒業生は、大震災の影響で卒業式を挙行することができませんでした。

私事で大変恐縮ですが、実は私の娘も3年前、この大震災で卒業式を迎える事ができませんでした。

娘の晴れ姿を期待していた私はとても寂しい思いをした記憶があります。

ですから、卒業される皆さんには、本日のこの日が当たり前に来るのではなく、無事迎える事ができたことに

対し感謝をしていただきたいと思います。どなたに、何に感謝するかは、保護者の皆さんにでも、教職員の皆さんにでも、頑張ったご自分にも、どなたに感謝しても間違いではないと思います。

そして、この私も父母と教職員の会の役員を仰せつかったことで、昨年に引き続き、2年も連続して卒業式に列席させていただき、皆さんの晴れ姿を拝見出来たことに、とても感謝しております。

娘がこの中にいるような感覚で皆さんと一緒に喜びを味あわせていただいております。

皆さんには、この感謝という気持ちを忘れないで社会で活躍していただきたいと思えます。

どんな時でも、どんなに辛いことがあっても、もつと辛い人がいるという事、震災で大学を辞めなければならなくなった学生も沢山います。未だにご家族が見つからない方も沢山いらつしゃいます。

今が当り前で来ているのではないのだということ、ほんの少し考え方を換えれば、今無事に卒業を迎えられる事に対し、感謝の気持ちでいっぱいになってくるということだと思います。

終わりになりますが、保護者の皆様には、4年間の長い間、父母と教職員の会にご理解ご協力をいただきました。誠にありがとうございます。この場をお借りいたしましたので、改めて御礼を申し上げますとともに、卒業生皆さんの益々のご活躍と、ご家族皆様方の御健勝、そして文教大学の益々のご発展を祈念いたします。お祝いの言葉とさせていただきます。

ご卒業おめでとう

◎ 大学院

言語文化研究科 9名
人間科学研究科 25名
教育学研究科 4名
情報学研究科 3名
国際協力学研究科 1名

◎ 専攻科教育専攻科

8名

◎ 外国人留学生別科

7名

◎ 教育学部

学校教育課程 241名
心理教育課程 106名

◎ 人間科学部

人間科学科 169名
臨床心理学科 123名
心理学科 157名

◎ 情報学部

広報学 170名
経営情報学 148名
情報システム学 127名

◎ 文学部

日本語日本文学科 133名
英米語英米文学科 151名
中国語中国文学科 116名

◎ 国際学部

国際観光学科 125名
国際理解学科 135名

◎ 健康栄養学部

管理栄養学科 98名

26年度 入学試験状況報告



忘れられない入試

入学センター長 近藤 研至

入試は大きなイベントです。最高の結果を出すために、受験生本人はもとより家族総出で、長い期間を費やして準備をします。私も数年前受験生の父親で、このイベント終了後、結果に対する喜びよりも、それが終了したことに對する喜びから、しばらく放心したことを覚えています。

入試は大学にとっても大きなイベントです。入試問題について、日程や会場について、監督についてという入試自体に関わることから、オープンキャンパスや高校訪問や広報についてということまでを、かなりの労力と期間をかけて準備します。そして、受験者数はどれくらいか、大きな問題が発生しないだろうかという気持ちを抱きながら当日を迎えます。終了後も、入学者数はどれくらいか、入試に問題はなかったかという心配がしばらく続くのです。

全国の大学で志願者数は大きく減少しており、我々はどれくらい減少

するのかと相当危機感を抱いておりました。しかし、情報学部が新しくなることと経営学部が設置されること、さらに地区入試ではすべての学部が併願できるようになったことなどから注目されたのでしょうか。下の表に掲げましたように16、825名の志願者があり、昨年度に比べて7%弱の減少にとどまりました。

「健闘した」と言えるでしょう。表にあるように、どの入試区分にも多くの受験生が集まってくれました。入試区分とは単なる日程のことではなく、大学としていろいろな能力をもった学生に来てもらいたいために設けている枠組みです。そうした入試区分を突破して入学してきた多様な学生たちが、自らの能力を十分に発揮しながら、互いにそれぞれの能力を肯定し合いながら生活している姿がキャンパスに溢れています。

なお、今回の入試は、2月8日に何年かに一度という大雪に見舞われました。私は定年までに相当数の年月がありますが、今年度の入試のことは絶対に忘れることはないと思えます。今年度の入試にご協力いただきました皆様、心より感謝申し上げます。

平成26年度 文教大学入学志願者数

学部	学科・課程・専修・コース	入学志願者数							合計
		AO入試	推薦入試	地区入試	大学入試センター試験利用入試	A日程入試	B日程入試	付属高校対象学力入試	
教育学部	国語専修		31	129	294	577			1,031
	社会専修		44	186	328	664			1,222
	数学専修		28	195	344	668			1,235
	理科専修		12	98	195	382			687
	音楽専修		17	36	46	145			244
	美術専修	6	3	7	31	36			83
	体育専修		59	89	109	361			618
	家庭専修		8	37	63	112			220
	特別支援教育専修		21	60	84	218			383
	課程計	6	223	837	1,494	3,163			5,723
心理教育課程	児童心理教育コース		34	143	215	452			844
	幼児心理教育コース		49	92	127	310			578
	課程計		83	235	342	762			1,422
	学部計	6	306	1,072	1,836	3,925			7,145
人間科学部	人間科学科		55	191	353	485	64		1,148
	臨床心理学科		48	175	299	377	51		950
	心理学科		59	103	335	363	53		913
	学部計		162	469	987	1,225	168		3,011
文学部	日本語日本文学科		69	102	311	319	45		846
	英米語英米文学科		70	66	317	385	56		894
	中国語中国文学科		40	37	79	77	13		246
	学部計		179	205	707	781	114		1,986
情報学部	情報システム学科	24	63	36	308	158	44	4	637
	情報社会学科	36	18	22	154	78	21	1	330
	メディア表現学科	19	44	58	340	163	39	2	665
	学部計	79	125	116	802	399	104	7	1,632
国際学部	国際理解学科	10	53	47	353	195	31	1	690
	国際観光学科	33	77	77	314	179	19	4	703
	学部計	43	130	124	667	374	50	5	1,393
健康栄養学部	管理栄養学科	42	86	59	191	258	43		679
	学部計	42	86	59	191	258	43		679
経営学部	経営学科	41	68	48	529	242	45	6	979
	学部計	41	68	48	529	242	45	6	979
	合計	211	1,056	2,093	5,719	7,204	524	18	16,825

ますますのび活躍を

先生方からのアドバイスを活動に生かします

「退職される教職員のみなさまへ」

事務局長 恵羅 博

学園の春は、卒業生を送る風景に彩られて始まります。教職員の皆さまにおかれましても、本年度は10名の教員、4名の職員の方々が大学を去って行かれることになりました。

40年以上、本学園のために尽くしてこられた方々も多くいらっしゃいます。永年のご貢献に深く感謝したいと思えます。ともあれ、期間の長短にかかわらず、在職中に父母と教職員の会に多大なるご協力をいただいた方々ばかりであります。感謝の言葉を申し上げるとともに、今後とも引き続き本会を見守って下さるようお願いしたいと思います。退職する皆さまのこれからのご活躍、ご健康をお祈りいたします。

父母教に支えられて

教育学部教授 中島 俊典



私は父母教の運営委員を体験し、支部総会等に出席させていだいて、

それまで見ていた大学は一面でしかなく、大学は実に多くの方々によって支えられていることを改めて認識しました。お子様の卒業後も活動されていることに、本当に頭が下がります。物理学の法則を転用すると、人は互いに離れていても、その間には熱意の大きさに比例する力を生じるはずで、皆様の熱い支持が大学の教育活動を盛り立てているものと確信しています。父母と教職員の会が、今後とも同窓会等と連携して、大いに発展されるよう祈念いたします。

青年期に「自我の確立」を

人間科学部教授 森 裕子



私は、人間科学部臨床心理学科に10年間に在籍し、学生の皆さんとの交流に生きがいを感じてきました。私

がその交流において特に努めてきたことは、学生の皆さんの「自分探し」において同伴者となることでした。

青年期は、「自分探し」のとき。大学時代に十分に考え、迷い、悩み、

行動することで、本当の自分に出会え、「自我の確立」をすることができ、青年期に「自我の確立」をすることは、大人になったときの幸せや人生における成功も予測するほど重要であると心理学は教えています。文教大学の学生さんの人間的成長の促進を心より祈念いたします。

文教のあたたかさ

文学部教授 田辺 武光



立正女子大学が文教大学へと変貌・発展するその年（1976年）以

来、在職が38年の長きに渡りましたが、その間、本学そして世の中がこれほどまでに変わるとは「変化をぶささに体験出来るのは、年を取ることの（あまり多くない？）メリットの一つかも知れませんが、そんな慌ただしい中でも変わることのない元荒川の自然に象徴されるような、温かい「文教ハート」に包まれて、主に外国語（フランス語）担当の私も楽しく過ごすことが出来ました。スタッフの皆様が行き届いた心配りによって、父母の方々と良きつながりがいちだんと深まりますよう、心か

ら願っております。

輝きを放ち続ける文教大へ

情報学部教授 鈴木 昇一



34年間勤務し、1980年の情報学部開設時に在籍していた教員は、

坪井順一教授、広内哲夫教授、鈴木の3人だけに今やなり、定年を迎えました。計算機関係の講師以上の専任教員は、事実上36歳で情報学部教授になった鈴木一人であったため、第一回の卒業生が巣立つ4年間、月曜日から土曜日まで大学に毎日出勤し、広内先生と共に夢中で忙しく過ごしたことが、懐かしく思い出されます。情報学部入試委員長として、情報学部の選択科目に、初めて「世界史」、



「数学I」を取り入れました。情報学部への「世界史」のこの取り入れに教育学部、人間科学部はすぐ追従しました。このためもあってか、全国のすべての大学を抑え、全学部平均で40倍を超える入試倍率で全国第一位になり、この事実が1981年3月の朝日新聞夕刊に記載されました。文教大は輝いたのです。大学は生き残りをかけて、競争時代に本格的に入っています。この事実に対処するために自分は何ができるのかを考えて今日に至りました。

退職にあたって

情報学部教授 富田 輝博



私は1987年以来、27年間勤めて定年を迎えることになった。情報学部は湘南校舎に移転したばかりで、90年代はちょうどITブームと、まさに全盛の時代であった。在任中、北は北海道から南は九州まで各地の支部を訪れ、保護者の方や卒業生と話す機会を持てたことは幸いであった。私のゼミ生のご両親がそろって支部会において熱心に教育方針について尋ねられたり、母親が文



教短大を卒業し、息子が私のゼミ、妹が国際学部生という例もあった。そして、留学生も数人指導したが、彼らが母国で活躍しているという便りを聞き、喜ばしく思っている。

社会調査士への教育

情報学部教授 八ツ橋 武明



文教大学では23年間働かせていただいたが、後半は主に社会調査を担当した。10年前に日本社会学会が中心となり、社会調査士資格が出来た。その資格のための科目認定にパスして資格が取れることとなり、学生諸君を叱咤激励しつつ、調査の面白さをどの様にして体験させるかに留意した。「現実人は頭で考えれば分かるほど単純ではない。調査は面白い事実を教えてくれる」、これがキャ

ッチコピーで、面白さを体験した学生は調査系に就職する傾向があった。私は方法を教え、逆に学生の調査データから色々な発見を学んだ。教えるだけの授業とは異なる醍醐味があった。

文教大学父母教の未来に向けて

越谷キャリア支援課長 石田 知子



大学のPTA組織は今や必要不可欠な存在になったが、ここにも少

数の波は押し寄せており、会員数が激減している地方支部は待ったなしのため、学生募集に手をかけ始めたところも出てきた。徳島県支部の支部長さんからの協力要請で市内県立高校を4校訪問したおり、先生方の関心は、本学の教育・就職支援体制が手厚く確実であること、隣の香川県出身者が教採試験に合格したことであった。地元をよく知る支部長が、進学データを自ら用意し、ここまで真剣に取り組み実行したことに感謝してもしきれない思いで胸が熱くなった。さらに生徒に直接伝えるミニオープンキャンパス開催を計画中である。何もせずに嘆くより、持てる

力・手・知恵・意志力を200%活かす「徳島の実験」を数回繰り返し、遣り切ることで結果に繋げていく方法で勝ち抜いていくしかない。必要であれば、全ての組織がいつでも何所とでもガッツリ手を繋げる柔軟性・行動力・戦略性が求められる。世界経営者会議における企業の戦略や、人材育成方針の変化を見るとその必要性は一目瞭然である。

今、学園は建築ラッシュでありハード面は最新・最適なものに変化しつつあるが、ソフト面がそれに付いて来るわけではない。次世代は、出た来たがったハード以上の質の高い仕事のために、相当の覚悟で意識改革を一人一人が当事者として自ら持たなければ、未来はないことを多くの大学人が気付き、すでに行動を起こしている。徳島県支部の新たな行動力に敬意を表し、改革の震源地となつて父母教も学園の未来につなげる仕事が続いていくことを願っている。と、ここであちこちで二極化が起きてくるが、これを読んで笑ったそのあなた、ついでにあなたの未来がないことも時代が保証してくれることを記しておきたい。

キャンパスよ、
熱くなれ

顧問・学長 野島 正也



3月、華やいた
雰囲気のなかで卒
業式が執り行われ、
卒業生が校門を巣
立つていきました。そして4月、キ
ャンパスは清新な新入生たちを迎え
入れます。

学長になって2年目。あらためて、
大学の「キャンパス」についての思
いを述べさせていただきます。

ある大学の先生が、私にこんなこ
とを言いました。「ウチのキャンパ
スは広くてね、端から端まで行くの
に自転車で15分かかるんですよ。」
これを聞いて私は「すごいですね。」
とは言いましたが、内心は、「それが
どうしたの？」という気持ちでした。

文教大学のキャンパスは越谷・湘
南とも、自然環境に恵まれ落ち着い
た雰囲気がありますが、キャンパス
はそう広くはないです（とくに越谷
は手狭感があります）。でも、それ
は私たちにとっては所与の条件であ
って、すぐにどうこうできるもので

はありません。

幸い、両キャンパス共に、学生の
賑わいがあります。とくにお昼休み
はそうです。この賑わいこそが文教
大学のキャンパスの「顔」だと思っ
たのです。ある学生と話をしていた
とき、こんなことを言うのです。「授
業のないときも大学に行きますよ。
行けば友だちや知り合いに必ず会
し、楽しいから。」

ケーキでいえば、7号や8号の大
きさのものでなくても、4号や5号
でも、色とりどりのフルーツやスイ
ーツが満載のケーキは魅力的です。
私たちのキャンパスも大きさを誇る
のではなく、人間的な温かさを誇り
たいと思っています。学生はキャン
パスで一日の多くの時間を過ごしま
す。その場所をみんなでもっともっ
とすばらしいところにしていきたい
と思います。

キャンパスは、大学の敷地内に限
ったものではありません。敷地内キ
ャンパスをイン・キャンパスとすれ
ば、地域活動や国際交流の活動はア
ウト・キャンパスで行われます。地
域でのボランティア活動・NPO体
験活動、企業でのインターシッ

体験、市役所での企画立案への参加、
学校での先生の助手体験など、学生
は意欲的に取り組んでいます。これ
らの学生へのバックアップ態勢を強
める必要を感じています。学生を地
域でたくましく育てていただきたい
と思っています。

文教大学は多くの海外留学・研修
プログラムをもっています。短期留
学から帰ってきたグループのキャン
パスでの報告会を聞きました。撮っ
てきた映像を見せながら全員がみご
とな英語で発表していました。グロ
ーバル社会に対応できるように、学
生の英語力アップの支援を早急に図
る必要を感じます。

キャンパスのカナメの施設は、な
んといっても「教室」です。教室が
あることが、大学が大学であるゆえ
んです。教室は、先生が授業をして、
学生が聴くところ、といってしまう
ばそれまでですが、まだまだ可能性
いっぱい施設です。先生が研究の
成果をふんだんにつぎ込んで授業を
し、学生もそれを傾聴し、わからな
ければどんどん質問する。授業は学
生と教員が協同でつくるものです。
この緊張感はずいぶんほしいです。

少し古いのですが、こんな話があ
ります。英語の授業でいくつかのク
ラスを担当している先生が、同じ授
業を繰り返すのはめんどうだとい
うので、教えたいことをテープに吹き
込んで教室に持ち込み、これを聞い
てほしいと学生に言い残して教室を
出ていきました。次の週の授業も同
じでした。そしてそのうちに教室で
は教壇のテープが回り、学生の席で
はそれを録音するテープがいくつも
回り、誰もいなくなりました。

文教大学は違います。大学は「授
業」が命。先生方には授業の工夫を
いっそう進めていただき、熱気があ
り心が通う教室づくりを進めていき
ます。目指すは、「教育の文教」です。
これからも父母の皆様からご支援
・ご協力をいただきながら、魅力あ
るキャンパスづくりを進めていきたく
と思います。どうぞよろしくお願
いします。



経営学部の概要と特徴

経営学部長 坪井 順一



経営学部ご入学おめでとうございます。経営学部では、文教大学の人間愛の教育

理念を現実の学部の中に理念として具現化し「人間尊重の経営」をめざしています。学生が4年間を充実して学び、学生生活を送ることができるように入人数の授業を中心とし、「教員が学生一人ひとりに名前をかける」そんな学部にしていきたいと思っています。4月のオリエンテーションの間に各自で名刺を作ってもらいます。合宿時や、それ以外の場で名刺を配ることによって友達作りの輪を広げてほしいという思いからです。5月にはクラス対抗のスポーツ大会があります。10月には経営学部の創設記念の講演会も予定され、学生も当然参加します。年間を通して、クラス担任のもとに常に学生と接する機会を作り、満足のいく学生生活を送ってもらうことが目的です。また、在学中に一度は外国に行き、異文化体験をしてほしいというのも学部の狙いです。多くのことを学び、経験して、自

立的な人間形成をめざしてがんばっていきたく思います。

学部には三つの領域があります。企業経営領域は従来の経営学部的人的資源管理論や組織学習論等の新しい分野を加え学問領域の充実を図っています。公共経営領域では、卒業後の進路を公務員やNPOなどを対象とし、授業の中で公務員対策や医療事務なども学んでしまおうという領域です。また、会計領域は、ここ数年増えてきた税理士や公認会計士の合格をめざして受験対策に力を入れていきます。学部の基礎として、「人間尊重」を学ぶため1年次では「人間と経営学」という必修科目があります。2年次には、「人間尊重と経営」という科目もあり、理念だけでなく、実際に人間尊重を考える学部になっています。

経営学部では同窓人試を行っています。保護者が文教大学の卒業生、あるいは兄弟姉妹が卒業・在学している場合が対象です。今回も10数名のご応募をいただきました。最後になりましたが、今後とも文教大学父母と教職員の皆様方の温かいご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

新しい情報学部がスタートしました

情報学部長 飯野 守



情報学部は2014年4月に新しい情報学部としてスタートしました。

新しい情報学部にはリニューアルした情報システム学科と、新設の情報社会学科、メディア表現学科という三つの魅力的な学科があり、多彩な専門性を持った教員が専門性を生かした教育を行います。中でも新設の情報社会学科は情報学部のコアとなることが期待されている学科です。「コミュニケーション戦略領域」と「プロジェクトマネジメント領域」という二つのユニークな領域の科目を学ぶことで、現代の情報社会の実情を踏まえた実践的な理論や知識を習得することができます。

新しい情報学部では、主専攻・副専攻というシステムを採用しました。これは、各学科が用意する専門科目を一定の単位数修得した学生に、その専門性の証として主専攻の認定を行うとともに、他学科ないしは自学科の他の領域の科目をさらに一定の単位数履修した学生には副専攻の認定も行うもので

す。学生は各学科に所属してそれぞれ専門性を高めながら、他の学科（ないしは他の領域）の魅力的な科目も修得することができるようになります。さて、情報学部で学ぶことで得られるものは何でしょうか。私は次のように考えています。

ICTを効果的に活用できることは当然として、その上で情報活用や調査あるいは広い意味でのコミュニケーションの能力に群を抜いて優れていると評価される。現代の情報社会の仕組みや問題点・危険についての確な見方ができる。情報社会におけるビジネスの仕組みの理解を踏まえて、新たな提案ができる。人間や社会に役立つ情報活用の仕組みを提案できる。このような特性を持った社会のリーダーとして活躍できる人材となることです。情報学部はこのような人材を育てるにふさわしいカリキュラムと教員、そして環境を揃えています。

なお、文中では新しい情報学部について強調しましたが、既に入學していただいている在学生の皆さんの教育や指導ももちろん抜かりありません。この点はどうぞご安心ください。

都道府県支部のページ

第20回 山梨県支部の巻

山梨の強みを生かして

山梨県支部長

松野 実



平成25年9月8日
に招致が決定した2020年の東京オリンピック・

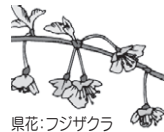
パラリンピックのニュースには、日本全体が元気になりそうな予感が感じられた。また、一方、山梨県民にとっては、6月26日にカンボジアの首都プノンペンで開催された世界遺産委員会で富士山が世界文化遺産に登録されたことは何よりもうれしく、ふるさとを誇れる出来事であった。

「ふじは、にっぽんいちのやま・」と童謡に歌われるように、富士山は正に日本一の山である。その北側に位置するのが我が郷土、山梨県である。某テレビ局では北側の山梨県、南側の静岡県、どちらから見た景色が素晴らしいかなど扱っている番組もあったが、そんなことは全くナンセンス、富士山はどこから見ても日本一いや世界一美しい山である。

山梨と言えば、最近ではB級グルメで「鳥もつ」がブレイクした。葡

萄・桃などのフルーツ、武田信玄の考案と言われる「ほうとう」、海のない甲府盆地で生まれた「煮貝」、さらには鹿革で作られた「印伝」な

ど色々な名物・名産品があるが、何にもまして誇れるのは「無尽(定期的な仲間同士の(飲み)会)」という人の和や絆を大切にしたい県民性があると云える。人口は東京都世田谷区民にほぼ匹敵する約87万人という小さな県ではあるが、その特性を生かし、人と人との結びつき、他者を思いやる心を大切にする県民の特性がある。



県花:フジザクラ

平成25年度の山梨県支部長に就任することとなったのは、25年度父母教支部定期総会の準備会に出席した妻からの電話であった。「県支部長の役職を引き受けることができますか?」「娘もいろいろ大学ではお世話になっていろいろだし、大丈夫だと思っよ。」という経緯で就任決定。その後には、定期総会への出席者を少しでも増やすことができるように、役員による全会員への勧誘が行われ

た。学生在籍数85名、父母教加入数63名という少数精鋭な利点を生かして、入会していない家庭も含め一年生保護者については全家庭への案内送付と電話連絡が行われ、会の活動の説明も含め熱心な勧誘が行われた。総会当日は出席者数20名(両親での出席あり)という成果を上げることが

できた。定期総会後に行われた研修会では金子俊先生、赤坂雅裕先生からご講話をいただき、また、個人懇談会・懇親会では、子ども達の大学での様子や進路についてより具体的なお話ができるなど、充実したひとときを過ごすことができた。さらにまた、定期総会後に父母教に加入する家庭が2組あったことは今回の活動の成果であった。

11月9日(土)10日(日)に文教大学湘南校舎で開催された全国支部長研修会に参加させていただいた。新支部長研修では支部運営を如何に進めていくべきかをより具体的にご教示いただき、若干なりとも不安が払拭されたように感じた。夕方より学生食堂で開かれた懇親会では、私が住まいする南アルプス市が平成15年に誕生した際に、野島正也学長が市として生涯学習にどのように取り

組んで行くべきかをアドバイザーとして関わっていただいたことや、奥田孝晴国際学部長とは、娘の学生生活の様子を親しくお話させていただくことができ、人と人との絆を大切にしたい文教大学の教育理念が体感できたような気がした。

2日目の研修では野島学長から「いま、若者とどう向き合うか」のご講義を、また、学生支援室からのお話をお聴きすることができ、難しい年頃の若者の実態や彼らの抱える課題を少しなりとも理解することができた。また同時に、保護者としての在り方・接し方について学ぶ貴重な機会となった。

大学に進学する際に迷っている娘に向かい、文教大学の卒業生である妻が話した一言「文教大学は先生との距離が近い大学だよ」は、これまでの娘の学生生活を見聞し、また、父母教支部や全国支部長研修会に出席させていただく中で、間違いなく実感しているところである。これからは、山梨県支部が人と人とのつながり・絆をより近いもの、より強いものとして発展していくことができるとして微力ながらも精一杯取り組んでいきたい。

風は西から

西風会幹事（福岡県前支部長）

福久 真吾



西風（せいふう）会って???

西風会とは、九州地区8県の父母教連合の名称です。合同研修会の企画・運営や、藍蓼会との連携を通して、各県支部活動の活性化を図るとともに、会員相互に、また、在郷卒業生の皆様と「つながり」ことをねらっています。

昨年9月から企画を始め、本部からのご助言や、支部活動特別援助金の後押しをいただいて、去る2月中旬に第一回目の研修会を開催しました。

立ち上げまでの経緯

私は、平成22年夏から昨夏まで、3年間福岡県支部長を務めさせていただきました。その間、先生方、本部役員の皆様、各地の支部長様などのご縁をいただき、文教大学と父母教のすばらしさや、人となつがることの喜びを感じてきました。一方で、地元福岡の会員様の中には、顔を合わせることはおろか、お電話で話すことすらできないままの方もいました。支部長を3年間務めたことの裏には、相互のつながりの希薄さのため、交代が

できなかつたという事情もありました。

毎年11月開催の全国支部長研修会では、西日本地区の支部長様とお話する機会が多かつたのですが、どこも似たような事情を抱えており、役員の交代や活力ある支部運営について悩んでおられました。年に一回、膝を突き合わせて悩みを出し合うことで、一時的に気持ちは軽くなり元氣も出ました。けれども、地元に戻ると、具体的な手だては打てないまま時間だけが過ぎていきました。

「もう一歩つっこんだアクションを起こさなければ、状況は変えられないのではないだろうか？」

そのような思いが強くなつたのは、支部長3年目の終わりが近づいた昨春のことでした。

そこで、まず新3年生の会員様とつながろうと考え、ご自宅を訪問させていただきました。それまでに何度か差し上げたお便りで、顔を覚えていただいていた方もあり、すぐにうち解けてお話ができるようになりました。これによって、8月に開催した支部総会に出席いただいた方もありました。また、藍蓼会支部会長様に、支部総会

への出席をお願いしたところ、ご快諾いただきました。さらに、父母教の高橋会長、前学園理事長の田村徹先生（久留米市在住）をご来賓としてお招きしました。

「つながりたい・つなげたい」という思いが、状況を変えるのだと実感しました。同時に、悩み多き仲間と「もう一歩つっこんだアクション」を一緒に考えることができたら、閉塞感を打ち破れるのではないか。そのために、まず九州がつながろう！という思いが芽生えました

第一回研修会

2月22日（土）、福岡市博多区で、第一回研修会を開催しました。本部から、会長、事務局長、事務局員2名の計4名、各県支部長、役員9名、藍蓼会支部会長3名の皆様にご参会いただきました。

「つながる」をテーマとして、各県支部の現状、藍蓼会の組織と活動状況等の報告を行い、

支部運営改善の視点や、連携の手だてについて、ワークショップ形式で協議しました。



ワークショップの様子

その全貌をお伝えすることができず残念ですが、一言で言うと、「熱い熱い議論」が交わされました。そして、それぞれの立場での「もう一歩つっこんだアクション」を具体的に考えることができました。

6月の代議員会及び6、10月に開催予定の各県支部総会、これら2つの行事を区切りとして、「つながる」をテーマとした確かな歩みが始まろうとしています。

おわりに

私事で恐縮ですが、学生時代の4年間を東京で過ごしました。

今年始め、同窓会福岡支部の新年会に参加しました。初めてお目にかかった先輩が4名いらっしゃつたのですが、出身地は、東京、北海道、高知、鹿児島でした。2時間ほどの宴でしたが、新たなご縁に恵まれ、おつきあいさせていただくことになりました。「同窓」の絆は、時を超えてつながるのだと、その有り難さをかみしめています。

国内なら、どこに住んでも文教の絆でつながることができる。

「九州？もちろんたいっ！」

そう言い切れることが、西風会の究極の目標なのかもしれません。

風は西から。まだ微風ですが・・・。

シリーズ

現場から見た昨今の文教大生気質 ③

覆水盆に返らさず…

文教大学副学長・教育学部

教授 近藤 研至



今から35年ほど前
のことです。Kは国立の二次試験の数学
で解答用紙に答えし

かかれないという失敗をやらかし、不合格。予備校でチューターに合格大学の一覽を差し出し、同志社に行く旨を報告すると、彼は、弁護士になりたい？うーん、どうかなあ：と口ごもりながら、「君、先生にならない？あんまり知られてないけど、この文教大学って、教員養成ではとても評判がいいんだよ」と言いました。入試日程の都合上、文教大学を何の情報も思い入れもいまま受けていたのです。弁護士になれない？だったら先生の方がいいなあ。こんな薄っぺらな心変わりです。文教大学への進学を決めました。もちろん親は仰天し、激怒しました。

京都での学生生活を想像してただけに、北越谷に対する驚きは格別でした。各駅停車しか止まらない駅。パチンコ屋だらけ駅前。変な飲み屋横丁やゴミ捨て場やだるま工場を横目で見ながらしばらく行くと、みんなで渡ると落ちてしまいうき橋。きれいな梅と桜。多くの鴨と川鶴や野鳥たち。ウシガエルの合唱に、夥しいコウモリ。大関東平野にある典型的な田舎風景がそこにはあったのです（今もありません）。最初はかなり驚き戸惑いました（「ぬるま湯」のような心地よさに、結局何の不满もありません、と言うより、大きな満足感を感じながら、4年間を謳歌しました。Kの満足の原因は、自らのサイズと大学のサイズが一致していたことにあるでしょう。今の倍の定員を抱えた専修は、自分の居場所が見つけられるサイズであると同時に、休んでも気づかれないサイズでもありました。適度に授業に、適度に課外活動に、適度（以上？）にパチンコに、適度に遊びに、という毎日。十分楽しんだ後、ゼミのH先生の勧めもあり大学院に進学しました。

Kがなりたいのは高校の先生でした。しかし、調べもせず入学したのが悪いのですが、当時のKの所属していた専修では高校教諭の免許は取得できませんでした。そこで大学院に進学し免許を取得して高校の教員になるという方法を選択したのです。もちろんプライドにかけてKは「知らなかった」なんて言えませんが、「自分の能力にかけてみたい」くらいのことを周りには言っていました。いくつかの大学院を出て、Kは山形県の工業高専の教官になりました。夢叶い、とても楽しく毎日を送っていた矢先、文教大学に來ないかという恩師からの誘いがありました。自分の人生を自らの意志で決めないことに決めたKにとって、恩師からの「命令」には従わなければなりません。Kは文教大学に戻ってきました。そしてH先生の研究室を訪れた時、「こんなことになるなら…」と絶句されました。

今年授業を終えた後、一人の学生がKに近寄ってきました。「先生は文教の卒業生って本当ですか？」Kは満面の笑顔で「そうだよ」と答えました。すると間髪入れず彼は、「ぼくの母は旧姓をIというんですけど、先生知ってますか？」と言い、そして「母はJ、M、Nという女性の名前を言ってごらんとも言っていました」と続けました。息子氏はそれほど明るい表情ではありませんでした。彼にとって母からの情報はさほど重要なものではなかったのですが、その母にとつては息子に自らの存在感を示すためにも、とても重要な情報だったに違いありません。彼のことがらKはよほどの衝撃を受けたのでしょうか。最初の「「そうだよ」の笑顔のまま固まってしまったのです。そして自分の職業を忘れて「お前、Mの子か！」と、授業の口調とは一変した乱暴な口調で叫んでしまいました。母氏は名前をMという、学生時代の「悪い友人」の一人でした。「Mに言っておけ！ぼくに近づくなと！お前の母ちゃんは嘘つきだ！そんな女なんて知らん！知らん！知らん！」

今後、こういうことが何度か起きるかわかりません。年齢からしてしばらくは同級生の子どもがやってきて、「お前、今、なんだか立派なことを言っているが、学生時代のお前は…」という「脅し」と戦わなければならないですし、その後はKが着任してからの教え子たちの子どもらがやってきて、同じことを言うだろうから、それとも戦わなければならないのです。Kは今、あの時のH先生と同じことばを口走る毎日です。「こんなことになるなら…」

これまでのKと文教大学の35年の歴史は、これからのKと文教大学の歴史を決づけています。

支部派遣教職員報告

その⑫

山形県支部研修会報告 2月8日

雪の山形・協力と人情と熱気と

健康栄養学部 管理栄養学科

教授 松田 素行



平成26年2月8日
(土)、大雪のために交通が乱れ会員が集まる

ことができないか不安感が漂う中、時間前には出席が予定されていた総勢27名の会員全員が集合し、雪に強い県民を証明したようにして始まった山形県支部の冬季研修会でした。

池田支部長の開会宣言に続き、お一人お一人から自己紹介を含めて「思い」が語られると、共感とよめきが交錯し、会場はすぐに和やかな雰囲気になりました。その後、藍蓼会遠藤支部会長からご挨拶があり、文教大生を取り巻く協力態勢の厚さに安堵の声も聞こえてきました。

研修第一部は、湘南校舎教職員から「湘南の学生について」及び「期待される新しい職・栄養教諭」、越谷校舎教員から「最近の就活事情と支援について」と、それぞれ講話があり、学生生活や就職状況について現状理解を深

め合うとともに、今後に向けた取組について確認することができたように思います。

第二部は、小学校教諭としてご活躍の卒業生から「就職体験」として、現職を決定した経緯及び就職に至るまでの活動の実際をお話いただきました。この講話を通し、就活は、子どもにとってはそれまでのキャリアの集大成であり、親子にとっては互いに育んできた価値観の確認の機会なのだということを実感したような気がします。親子で闘った就活を振り返り「幸せ」の言葉をお母様から聞いた時のご自分の心情について話が及んだとき、多くの会員の目頭は熱くなり、心から卒業生の今を称えるとともに、就活に臨む心構えを父母と教職員が真に共有し合えたように感じられました。大きな拍手は、懇親会でも続いています。

我慢強く協力的性があると言われる県民性が、学生生活の充実と就活に発揮されることを期待するとともに、目標の実現に向けて父母教が協力し合うことを熱く確認し合った大変実り多い研修会となりました。

福島会津支部研修会 2月1日

福島中通り支部研修会 2月16日

福島之二支部研修会に参加して

文学部 日本語日本文学科

教授 紙 宏行



2月1日に会津支部研修会、16日には中通り支部研修会に参加した。ひとつの

県で3つの支部に分かれているのは福島だけで、こうなった経緯は知らないが、支部活動が熱心であることは今回参加して実感した。

会津支部研修会は、渋川間屋という明治の間屋建築そのままの由緒深い建物で開催された。大学からの参加者は、新年度に発足する経営学部と坪井順一先生と私であった。それぞれの話のあと、個別面談、懇親会という流れであったが、要領よく会が進行した。懇親会には、元の支部長がご高齢と病後を押し参加され、また近年の卒業生の参加もあって、好感の持てる会となった。

中通り支部研修会が行われたのは、あの大雪の翌日であった。在来線も止まり高速道路も通行止め、辛うじ

で動いているのは新幹線だけという状況で、30名ほど参加の予定が無事郡山まで来られたのはわずか6名であった。前代未聞のことだそうで支部長さんも困惑されていたが、おかげで個人面談の時間はたっぷり取れたのだ。大学からの参加は、石橋昭良越谷就職委員長、国際学部の千葉克裕先生に、私であった。

両支部とも懇親会では、原発事故の問題が話題に出た。それでも積雪の季節は線量が低いのだという。震災後3年を経てもなお事故に隣り合っている生活をされていることを思うと、関東在住の私には申し訳なく思うと同時に、また憤りもこみあげてくる。どの支部の研修会に参加しても、父母の方々は、「文教大学はとてよい大学で、子どもを入れてよかつた」とおっしゃる。私が大学教員でもあるので、いくぶんかのお世辞もあるが、面映ゆい気がする。ことに、改めて気を引き締めている次第である。



学内訪問 どんなんところ？

「人が生きるための原動力」

越谷校舎 生涯学習課

課長 天川 咲子

前回は湘南校舎生涯学習課のご案内でしたが、この号では越谷校舎の生涯学習課をご案内いたします。大学にある生涯学習課と聞いても、保護者の皆様や学生の皆さんはあまりご存知ないかもしれません。この両キャンパスの生涯学習課は越谷キャンパスにある生涯学習センターに所属しており、教員と職員が協力して企画・運営をし、色々な講座を開催しております。越谷校舎の講座の受講対象者を大きく分類すると一般の方、現職教員の方、学生の方のための講座となっています。

人は生涯にわたり学び・学習を続けていく能力・熱意を持っています。自発的な意思に基づいて、自分の趣味や適性をいかして活動を継続していくことが生涯学習です。

大学は学生だけが学ぶところと思われがちですが、生涯学習課は、地域の皆様や一般の方々が、大学の中に入ってきて自分に適した講座を探し、学習できるようにサポートをし

父母のための一日大学～父母と教職員の会による～ プログラム(案)

日時：平成26年6月8日(日)

湘南キャンパス

於：文教大学湘南校舎

9:30～	受付開始	4号館 6号館	情報学部&経営学部 国際学部&健康栄養学部	
10:30～11:40	① 学科別 父母会員と教職員の懇談会			相談窓口
11:50～13:30	② 父母会員と教職員の懇親会 (アルコール飲料は用意しておりません)			
13:45～14:45	③ 講話・学内見学ツアー1便			⑦ 個別相談 コーナー 学科別窓口 教育支援課 & 学生支援室
	「変容する出版会と就職」	情報学部メディア表現学科(広報学科)	准教授 田畑 則重	
	「情報社会学科の挑戦」	情報学部情報社会学科	教授 関 哲朗	
	「情報システムとデジタルコンテンツの良い関係」	情報学部情報システム学科	准教授 佐野 昌己	
	「国際理解とことばの教育-世界と繋がるコミュニケーション力を目指して-」	国際学部国際理解学科	教授 生田 祐子	
	「現場(フィールド)主義-エコツーリズム、文教の森と学生たち」	国際学部国際観光学科	教授 海津 ゆりえ	
	「男と女のナイスエイジング-メノボとメタボの食事学-」	健康栄養学部管理栄養学科	准教授 秋吉 美穂子	
	「会計でわかるもの～簡単な財務諸表分析～」	経営学部経営学科(情報学部経営情報学科)	准教授 石田 晴美	
15:00～16:00	学内見学ツアー1便 (※コース)			
	④ ゼミ/有志支援学生による研究発表・サークル活動発表会			
	情報学部 ゼミ発表	井 徳 ゼミ	健康栄養学部 ゼミ発表	井 上 ゼミ
	国際学部 有志支援学生によるプロジェクト		経営学部 ゼミ発表	新 井 ゼミ
	サークル活動発表会(予定)			
⑤ 講話 「就職活動におけるご父母の心構え」			キャリア支援課	
⑥ 学内見学ツアー2便 (※コース)				

※ スタジオ、メディア棟、外国語ラウンジ、図書館、太陽光発電パネル、学生の支援、健康栄養学部施設など

*個人面談は、当日のお申し込みとなります。

*詳細につきましては、ご案内状をご覧ください。

越谷キャンパス

於：文教大学越谷校舎

9:30～	受付開始		[正門前 3号館入口]
10:30～12:00	教室別懇談会		[各教室]
12:00～13:00	昼食会		[学生食堂1階]
13:15～14:15	講話 ①「文教大学が生き延びるためには！」	文学部 鈴木 健司先生	[12101教室]
		②「進路をめぐる現状と支援について」	就職委員長・人間科学部 石橋 昭良先生 [13101教室]
14:30～15:30	③「ゆとり教育と大学生～生涯学習の観点から」	人間科学部 青山 鉄兵先生	[12101教室]
		④ クラブ・サークル発表	[13101教室他]
13:15～15:30	⑤ コーラス・ワークショップ	教育学部 三谷 亜矢先生	[511教室]
	声楽がご専門の三谷先生のご指導で、一日大学参加者と学生有志とで合唱曲を仕上げ、懇親会においてその成果を発表していただくというワークショップです。		
15:45～17:15	父母と教職員の懇親会(茶話会) (含むコーラス・ワークショップの成果発表)		[学生食堂2階]



越谷校舎 生涯学習課の皆様方

生涯学習課7名のスタッフがお待ちしております。

また、本学学生へのサポートとしては学内で受験できる検定試験を実施し、それらに関する対策講座も開講しております。更に、学生に役立つテキストも揃えています。テキストの要望がありましたらお聞かせください。

現職教員対象についても免許法認定通信教育・認定講習（平成26年度まで開講）、教員免許状更新講習、子育て支援カウンセリング等の講座を開催しております。

また、本学学生へのサポートとしては学内で受験できる検定試験を実施し、それらに関する対策講座も開講しております。更に、学生に役立つテキストも揃えています。テキストの要望がありましたらお聞かせください。



湘南 平成26年度行事予定

4.1~	在学生・新入生オリエンテーション・健康診断
4.9	入学式（有楽町・東京国際フォーラム）
4.14	春学期授業開始
6.7	父母と教職員の会 第29回代議員会（越谷校舎）
6.8	父母のための一日大学
7.29	春学期授業終了
7.30~8.5	春学期定期試験
8.6~8.24	夏季休業
9月上旬	会報111号発行予定
9.3	4年生春学期成績発表
9.4	1~3年生春学期成績発表
9.22	秋学期授業開始
9.25	9月期卒業式
10.17	創立記念日
10.24~10.27	登塔祭
11.8~11.9	父母と教職員の会 支部長研修会（湘南校舎）
11.16	推薦・留学生・帰国生・社会人入試
12.22	授業終了
12.25~1.8	冬季休業
12月下旬	会報112号発行予定
1.9	授業再開
1.26	秋学期授業終了
1.27~2.2	秋学期定期試験
2.1	地区入学試験
2.7~2.9	A日程入学試験1期
2.20	4年生秋学期成績発表
2.26	A日程入学試験2期
3.6	B日程入学試験
3.7	卒業審査会
3.9	1~3年生秋学期成績発表
3.11	卒業発表
3.19	卒業式
3.20	春季休業開始
3月下旬	会報113号発行予定

〈太字は父母教関係〉

越谷 平成26年度行事予定

4.1~4.5	新年度オリエンテーション・健康診断期間
4.7	春学期授業開始
4.9	入学式（有楽町・東京国際フォーラム）
5.15	新入生歓迎スポーツ大会
6.6	春学期学生会総会
6.7	父母と教職員の会 第29回代議員会（越谷校舎）
6.8	父母のための一日大学
7.26	春学期授業終了
7.28~8.2	春学期定期試験
8.9~9.3	夏季休業
9月上旬	会報111号発行予定
9.4	成績発表
9.12	秋学期授業開始
9.26	9月期卒業式（予定）
10.16	体育祭
10.17	創立記念日
10.30~11.3	藍蓼祭
11.8~11.9	父母と教職員の会 支部長研修会（湘南校舎）
11.15~11.16	推薦入学試験
12.3	秋学期学生会総会
12.22	授業終了
12.24~1.7	冬季休業
12月下旬	会報112号発行予定
1.8	授業再開
1.17~1.18	大学入試センター試験
1.26	秋学期授業終了
1.27~2.2	秋学期定期試験
2.1	地区入学試験
2.7~2.10	A日程入学試験
2.19	成績発表（4年生）
3.6	B日程入学試験
3.7	卒業審査会
3.11	卒業発表
3.16	卒業式
3.17~3.30	春季休業
3月下旬	会報113号発行予定
3.31	1~3年生成績発表（予定）

〈太字は父母教関係〉



学生活動紹介

吹奏楽部(越谷校舎)

文学部 日本語日本文学科
3年 大谷 愛花

今回、文教大学父母と教職員の会の会報に吹奏楽部をご紹介いただき、誠にありがとうございます。

私たち吹奏楽部は現在、4年生が引退し、約105名で活動いたしております。

日々の活動は年2回のサマーコンサートや定期演奏会、そして夏のコンクールを軸にデイズニーマミュージックプログラムへの参加や小中学校への依頼演奏、指導依頼といった活動を積極的に行っております。また、昨年の10月には、第61回全日本吹奏楽コンクールにて金賞を受賞いたしました。

このように活動ができるのも日頃支えて下さっている、父母と教職員の会の皆様のご厚情の賜物であります。また今回、父母と教職員の会から吹奏楽部へ援助金を支給していただき、深く感謝しております。

これからも皆様に素晴らしい音楽を伝えるために、学生の自立心を大



切にし、日々成長を続け、今年は更なる成長と発展を期して努力していきたいと思っております。

今後ともその他の学生や学生団体のよりよい活動のために、皆様のご支援、ご協力をよろしく願っています。



Media Studies Cafe

情報学部 広報学科

3年 野中 大樹

通称MSCは映像とフリーペーパーの制作、情報のあり方研究をしています。MSCは大学内で「BOU TON」というフリーペーパーを制作、配布しています。この雑誌の最大の特徴は表紙、記事の企画、取材デザインその全てを学生が考え制作しているということです。記事の内容は自由であり、自分の好きなものを紹介したり自分の考えを主張したりと様々です。授業で学んだこと、興味を持ったことをそのまま雑誌の作成に活かすことができ、成績を気にすることなく仲の良い友達と協力しながら一つの物を作る。そしてそれが完成したときの達成感と充実感。それがMSCの魅力です。

編集の際には大学の授業で実際に使用されるソフトを使って制作するので、友達と好きな物を作りながら学校の成績も上がりスキルアップにつながります。まさに理想の部活動といえるでしょう。

完成した雑誌は大学内で配布されます。無料とはいえ雑誌が面白くな

ければ学生は手に取りません。自分の好きな物をただ書くだけではダメなのです。「いかに面白く作るか」ということを考えなければいけません。どうすれば学生が私たちの雑誌を読んでもくれるのか、研究しながら日々活動しています。現在は父母と教職員の会の援助金を使って編集用ソフトの教本を購入し、よりハイレベルな雑誌の制作をしています。新刊は4月頃を予定しております。また、オープンキャンパスで配布する「文教大学版のるぶ」でも学生企画のページを任されています。こちらを読んでいただけたら幸いです。



文教大学生涯学習センターからのお知らせ

生涯学習センターでは、下記の講座を開講します。学内で格安に受検できる検定資格試験、対策講座もご用意していますので、ご子女にもお勧めください。「文教大学父母と教職員の会」会員本人（会費をお支払いいただいている方のみ）及びその子女が受講される場合は、受講料の一部（受講料の1割程度／上限4,000円）が「父母と教職員の会」から援助されます。皆様の受講をお待ちしています。

資格取得講座・検定試験（学生対象）

越谷キャンパス

- ◆資格取得講座
 - ・秘書技能検定対策
 - *日商簿記検定対策
 - ・保育士試験対策
 - ・Excel表計算処理技能認定対策
 - *TOEIC対策
 - *医療事務対策
- ◆検定試験
 - ・Excel表計算処理技能認定対策
 - ・TOEIC IPテスト
 - ・日本語検定
 - ・秘書技能検定
- ◆実用語学講座
 - *英会話
 - *中国語
 - *韓国語
- ◆その他
 - *手話会話入門・初級

湘南キャンパス

- ◆資格取得講座
 - ・秘書技能認定試験対策(1級・2級)
 - ・日商簿記検定試験対策
 - ・Word文書処理技能認定試験対策
 - ・Excel表計算処理技能認定試験対策
 - ・旅行業務取扱管理者試験対策
 - ・販売士検定試験対策(2級・3級)
 - ・TOEIC対策
 - ・医療事務
- ◆検定試験
 - ・Word文書処理技能認定試験
 - ・Excel表計算処理技能認定試験
 - ・旅行地理検定(国内・海外)
 - ・世界遺産検定
 - ・TOEIC IPテスト
 - ・実用英語検定(英検)
 - ・日本漢字能力検定(漢検)
 - ・日本語検定
 - ・秘書技能検定
 - ・日商簿記検定(外部会場)
- ◆実用語学講座
 - *キャリアイングリッシュ講座

*の講座は一般の方も受講できます。

文教大学オープンユニバーシティ

越谷キャンパス

- ◆特別講演
 - 生涯学習のススメ
- ◆特別講座
 - 11講座開講予定
- ◆教養講座
 - 約20講座開講予定
- ◆実用語学講座
 - ・英会話・中国語・韓国語
- ◆趣味講座
 - ・デジタルカメラ講座
 - ・囲碁・書道・ペン字
 - ・日本画入門
 - ・気功・太極拳
 - ・ヨガ・フラメンコ
 - ・ポル ド ブラ
- ◆パソコン講座
 - ・Word・Excel
- ◆親子科学教室
- ◆資格取得講座
- ◆文教大学市民フォーラム
- ◆外国人のための日本語講座
- ◆子育て支援カウンセリング講座

湘南キャンパス

- ◆特別講座（秋期予定）
- ◆教養講座
 - 19講座開講予定
- ◆実用語学講座
 - ・キャリアイングリッシュ講座
 - ・英会話・中国語・アラビア語
- ◆パソコン講座
 - ・Excel VBAプログラム入門講座
- ◆趣味講座
 - ・書道・ペン字・絵画
 - ・カリグラフィー（西洋書道）
 - ・ラジオパーソナリティと楽しむ昭和歌謡

現職教員対象講座

教員免許状更新講習	平成26年度も越谷キャンパス及び湘南キャンパスで開講します。3月28日より受付開始予定です。詳しくは本学のHPをご覧ください。	越谷：6～8月 湘南：6～8月
学級づくりセミナー	多様な立場から学級づくりの理論と実践について幅広く学んでいただける内容を、ゲスト講師も迎えて提供します。	8月19日（火）

お問合せ・資料請求

TEL 0120-160-449 ホームページ <http://www.bunkyo.ac.jp/stf/shougai/>
E-mail: shougai@stf.bunkyo.ac.jp

国際学部推薦入試生・

保護者対象説明会の実施

国際学部教授 赤坂 雅裕

2014年1月25日(土)、国際学部では恒例となった2014年度推薦入試合格者の保護者皆さまを対象とした説明会を実施しました。同会は、今年で6回目の実施となりましたが、入学を前にした保護者皆さまの不安を少しでも払拭すべく、奥田学部長はじめ関係の教職員より、学部での学びの在り方、学部・学科の特徴、単位履修習得の進め方等について説明をさせていただきました。また、協賛の父母教本部からは小林正信副会長にご参加いただき、本会の活動・意義紹介、そして会への積極的な参加を要請していただきました。

参加された約150名の保護者・合格者の皆さまと大変有意義な機会が持てたことを嬉しく思うとともに、ご協力をいただいた関係皆さまには誌面をお借りして心よりの感謝を申し上げます。

父母教充実のために

活動充実強化特別委員会委員長

埼玉県支部 吉澤 勝宣

父母と教職員の会(以後父母教)のサブ的な活動として活動充実強化特別委員会があります。

私共はこの一年間、ガイドブック・ホームページ(以後HP)の充実に努めて参りました。

ガイドブックの発刊で父母教の役割等わかりやすくなりましたが、更に掲載内容や字の大きさなど細かい部分も修正・改編致しました。

HPについては、より見やすく各支部の活動がわかるようにしました。HPは在学生はもとより進学希望者も数多く見ます。内容次第では入学希望者数にも結びつく重要なことから、専門業者と何度も打ち合わせをし、リニューアルします。

日本地図から各支部へアクセスし、会員数・行事日程・活動内容が閲覧できる予定です。

今後も事務局の皆様のご協力を得て全支部がHPの運営ができるよう進めていきたいと思えます。

これに満足することなく会員の皆様ご意見に耳を傾け更に良い内容にすべく努力をして参ります。

平成25年度課外活動表彰者一覧(敬称略)

《越谷キャンパス》

◇個人/本部役員

- | | |
|--------|--------|
| 阿部 翔太 | 高瀬 理央 |
| 堀川 佑惟 | 渡邊 敬弘 |
| 橋本 明日佳 | 渡部 創 |
| 天海 いづみ | 白幡 桃代 |
| 大熊 涼太 | 尾山 しいな |
| 新澤 舞 | 橋本 薫 |
| 岩崎 淳樹 | 石黒 あゆみ |

◇個人

- | | |
|-------|-------|
| 大室 文乃 | 伊東 洗哉 |
| 阿久津 司 | 川口 駿純 |

◇団体

- | | |
|-----------|--------|
| 女子ソフトボール部 | 野球部 |
| 男子ソフトテニス部 | 競技ダンス部 |
| 男子ハンドボール部 | 吹奏楽部 |

◇個人/本部役員

- | | |
|--------|--------|
| 後藤 英樹 | 佐々木 俊貴 |
| 岩崎 純一 | 島田 怜紗 |
| 赤堀 昂大 | 高橋 芳奈 |
| 加藤 美由紀 | |

◇団体

- | | |
|-----------|-------------|
| バドミントン部 | ソフトテニス部 |
| 軟式野球部 | 女子ソフトボール同好会 |
| ライフセービング部 | 放送部 |
| 和太鼓部 楓 | 茶道部 |
| 弓道部 | 演劇部 |
| ダンス部BUZZ | アカラサークルCYAN |

会員と会員の子(学生)に対する 援助金のお知らせ

父母と教職員の会では、キャリア支援課、生涯学習センターで講座・講習会を受講した方の費用の一部を援助しています。

- ・援助金は、各講座・講習会の1割程度とする。ただし、一講座の上限は4,000円。
 - ・援助金は、父母教事務局に学生証および領収書を提示することにより、その場で受けられる。
 - ・領収書が年度内(4月1日~3月31日)であれば、何講座でも受けることができる。
- 皆さま、どうぞご活用ください。

父母と教職員の会では、今後もお子様のキャンパスライフを身近に感じていただけるような誌面作りをめざします。皆様のご感想などを父母と教職員の会事務局までお寄せいただければ幸いです。

e-mail : fubokyo@stf.bunkyo.ac.jp

編集後記

今年各地とも寒波に見舞われ、大雪による被害もありました。やと暖かくなった越谷・湘南両キャンパスも新しい年度を迎えます。4、5月はたどたどしい新入生も、夏を迎える頃には立派な?大學生に変身します。楽しみです。

